

## 11 「女性らしさ」を強要しないで（女性）

5 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、こはまもところがお届けします。

10 今回は、働く女性に求められている、ある「ルール」についてのお話です。職場にルールがあるのは、業務の効率化や安全面への配慮など、理由はいろいろだと思います。しかし、例えば同じ職場で男性と女性が働いていて、女性だけが強要されるルールがあるとしたら、皆さんはどう思いますか？

15 福岡市内で働くある営業職の女性は、相手先を訪問する際にハイヒールとスカートの着用を命じられていました。「一日に何キロも歩くと、エレベーターのないビルもあるのにハイヒールはきつい」と訴えても、「そのほうが契約が取れる」と聞き入れてもらえなかったそうです。

20 仕事でのヒールの辛さを実感していた女性は多く、2019年には、「#KUTOO」（カートゥー）運動が話題になりました。「#KUTOO」とは、「靴」と痛みの「苦痛」を合わせ、セクハラ告発運動「#METOO」（ミートゥー）」に倣った造語です。始まりは、一人の女性が発信したツイッターで

25

した。同じ職場の男性は体への負担が少ないフラットな靴を履いているのに、なぜ女性にだけヒールが強要されるのか。そんな疑問をつぶやいたところ、たちまち多くの賛同が集まり、職場でのヒールやパンプスの強制反対は署名活動へと発展。およそ一万九千の署名が、厚生労働省に提出されました。

30

また、同じように、受付や飲食店などで働く女性にメガネを禁止しているところがあるそうです。その理由は、「見栄えが悪い」、「華やかさにかける」など見た目に関することがほとんどで、一緒に働く男性にはメガネが認められています。

35

ハイヒールの強要もメガネの禁止も、どちらも仕事をする上では関係のないルールです。問題の背景には、「見た目だけの女性らしさ」を押し付けたり、セクシヤルな観点でしか女性を見なかつたりする長年の見方や考え方があってはならないでしょう。性別に関係なく、同じ職場で働く一員として、個人の能力が評価される社会に一歩ずつ変えていきたいですね。

40